

みと好文カレッジ情報

～生涯学習社会の構築をめざして～ Vol.5

平成 25 年 3 月 31 日発行
発行所 水戸市教育委員会
みと好文カレッジ

〒310-0852

水戸市笠原町 978 番地の 5

水戸市総合教育研究所内

電 話 029(303)6602

F A X 029(303)6601

M a i l koubun@pluto.plala.or.jp

U R L

<http://business2.plala.or.jp/koubun>



『ほっとひといき！夢らんど』の講座のひとつ

みと好文カレッジは…

市民の皆様の生涯学習を応援します。何かを始めてみようと思ったとき、何をするか迷っているとき、一人では第一歩を踏み出すのに勇気が必要です。こんなときに、みと好文カレッジがお手伝いします。

各市民センターの定期講座情報や「あなたも師・達人制度」からの講師紹介など、生涯学習の羅針盤になればと思います。

子育て支援のための 育児ボランティアとは

育児ボランティア「えくぼ会」



登録について

- ・ 18才以上の方
- ・ 原則として活動地域は水戸市内
- ・ 託児の最長時間は2時間

育児ボランティア登録申込書」にご記入のうえ、みと好文カレッジ又は最寄りの市民センターにお申込みください。インターネットからも申込みができます。 ※随時受付けています。

育児ボランティア「えくぼ会」は、保育中の方々が各種講座や講演会に参加しやすくなるように、特設された託児会場で一時的にお子さんをお預かりしています。

講演会などに参加している受講者はもちろんのこと、お子さんや育児ボランティアのメンバーも一時保育(託児)という時間を通して、貴重な経験をしています。

※「えくぼ会」とは、みと好文カレッジの人材バンク「育児ボランティア」に登録している方の会の名称です。

ボランティア活動のために、実技研修をしています



『普通救命講習Ⅰ』の様子



『身近な物を使った遊び方・団体での遊び方』の様子

研修会参加者の声

(普通救命講習Ⅰ)

- ・ 何度も繰り返すことで身につくと思った。 ・ 地域で役に立った事がありました。

(身近な物を使った遊び方・団体での遊び方)

- ・ 身体を動かすことは本当に楽しいなと思いました。思考回路も使って脳もあたたかくなりました。
- ・ 子どもと関わる仕事をしているので役に立つと思った。また、スキンシップが大切なことがわかった。
- ・ おもちゃがなくても、アイデア次第で子どもと遊べることがよくわかった。

(ボランティア活動を通して)

- ・ 子どもたちの笑顔をみながら、子どもとともに考え楽しんでいけたらと思います。
- ・ 子ども達から元気をいただいているので、自分の健康管理に気を付ける様になりました。

みと好文カレッジの子育て支援講座

親子の幸せ応援講座

子どもとの心通じ合うコミュニケーション法や、ストレスを軽くし心にゆとりを持つためのコツを学び、良好な親子関係を築く手助けをする講座です。(託児付き)



「親子の幸せ応援講座」参加者の声

- ・こんな自分になれたらと前向きな気持ちで笑顔でいられる方法がわかり良かった。
- ・内容が良かったので、また先生の講座の定員を増やしてやってもらいたい。
- ・私がこの先、生きていくためのヒントがたくさんありました。
- ・人との接し方が理論的・学術的に理解できて納得できました。
- ・託児付きというのがとても助かりました。今後ともこういった講座が増えることを希望します。



学んで遊ぼう・七夕

親子の幸せ応援講座
～心地よい関係を築こう～

子どもとの心通じ合うコミュニケーション法や、ストレスを軽くし心にゆとりを持つためのコツを学び、良好な親子関係を築く手助けをする講座です。

会場 水戸市立東部図書館
講師 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学 准教授 橋本 佐由理 先生

第1回 良好な人間関係の形成のために～適応的気質を理解しよう～
日時 10月30日(水) 10:00～12:00
内容 自分自身の気質、適応性について学び、家族内での気質の役割について学びます。

第2回 生きるエネルギーを支える親のスキル
日時 11月6日(水) 10:00～12:00
内容 自分自身、家族のために、親としての「得意技」や「得意なスキル」を学びます。

第3回 表情や態度に表れた相手の心をキャッチしよう
日時 12月11日(水) 10:00～12:00
内容 ストレスがある時、幸せや満足を感じた時、人は様々なサインを出します。そのサインをキャッチするアンテナを持っていると、相手の心を読み取ることができます。どのようなサインが表れるのか、それをどうキャッチすればいいかを学びます。

第4回 相手の心に届く言葉の伝え方
日時 12月18日(水) 10:00～12:00
内容 言葉のちょっとした違いで、自分も相手も思いがけず傷つけ合ってしまうコミュニケーション法を学びます。

主催 筑波・水戸・上野・西田・酒門・吉沢市民センター、みと好文カレッジ
共催 水戸市立東部図書館

詳細は裏面に記載されています。



託児中での読み聞かせの様子

ほっとひといき！夢らんど

家庭教育支援事業の一環として、1才6ヶ月から3才までの子どもと親を対象に子育て支援サークルのメンバーと情報交換をしたり、家庭教育に関する講座を開催することにより、育児に対する悩みやストレスを解消し、子育てを楽しむ家庭教育とあわせて子育て支援を推進することを目的としています。

〔24年度の主な講座内容〕

学んで遊ぼう(七夕・魚釣り)、ミュージック・ケア、国際交流、運動会、お料理教室、親子ヨガ等

※募集は毎年5月です。詳しくは好文カレッジHP等でお知らせします。

「親業訓練講座」参加者の声

- ・親になる直前、親になってすぐの頃にこの講座に出会えていたら…。
- ・子どものためと思い受講したが、一番自分のためになった。
- ・自分が抱えていた問題がクリアになり考えが整理された。
- ・託児付きはとても助かります。集中して学ぶことができました。



託児の風景

親子ヨガ

子育て中の親のストレスを解消させるとともに、子どもと一緒に体を動かすことで親子のふれあいを深めます。



『心と体のリフレッシュ！』

親業訓練講座

子どもに親の思いが伝わらない。子どもとどのようにコミュニケーションをとっていいのかわからない。親と子の間に心のかけ橋をかけるためのコミュニケーションの手法を学びます



ベビーマッサージ

お母さんの手で優しく赤ちゃんをマッサージすることで、赤ちゃんは手のひらから愛情を感じ生きている力を育み、心や体の発育に力をあたえます。また、お母さんは、ゆったりと赤ちゃんに触れ合う時間を過ごすことで、心と体を癒します。



『ママの手は魔法の手！！』

さがけ塾

生涯学習サポーターは、みと好文カレッジとの協働により、みと好文カレッジや市民センターが主催する学習講座(学習プログラム)の企画・立案や運営に携わります。

生涯学習サポーターとの協働事業
私達が企画しました！

◇いっぱいあるよ「水戸のよさ」
(お宝再発見)



◇「いじめ」 ～いじめめる子・
いじめられる子・知らん振りの子～



◇あれから2年 東日本大震災から学んだこと
緊急時 子育て中に役立つ知恵袋
～来て得する防災講座～



◇ドキドキ・わくわく1年生
～入学までにやっておきたいこと～



学習相談

みと好文カレッジでは、市民の皆さんの生涯学習に関する相談に随時応じております。どうぞ、お気軽にお問い合わせください。また、電話やFAX、メールによるご相談も受け付けています。

- 〈例〉 ①市民センターで開催されている講座について知りたい。
②講演会の講師を探している。
③子育て仲間に出会える場を探している。等

あなたも師・達人制度

豊かな知識・経験・優れた技術や才能を持つ方を講師や指導者として登録・紹介する制度です。

- [登録] ①18才以上の方。
②特技や技術・知識を有し、市民の生涯学習を支援できる方。
③有償・無償に拘らず地域やサークルからの要請があった場合指導できる方。
- [紹介] 1 みと好文カレッジ・内原中央公民館または各市民センターまでお問い合わせください。
2 講師に関する情報をお知らせします。
3 講師には、ご依頼者が直接交渉し、日程・謝礼等を調整してください。
4 講師をお願いした場合は、お手数でも、みと好文カレッジまで、結果をお電話でご連絡ください。

—みと好文カレッジゆかりの地を訪ねて—

徳川 斉昭

1800-1860



徳川^{とくがわなりあき}斉昭は、寛政12年(1800)3月11日に江戸小石川水戸藩邸にて生を受けました。水戸黄門として名高い水戸藩第2代藩主^{とくがわみつくに}徳川光圀が亡くなってから、ちょうど100年後のことです。

斉昭は幼少の頃から学問に親しみ、武芸にも秀で、中でも射撃の腕は百発百中と称せられるなど、まさに文武両道の人でした。

また、陶芸等の諸芸にも通じ、刀の作製には特に^{すぐ}優れ、自ら鍛錬した刀を将軍家慶に献上し、日光東照宮に参詣する際の^{いさよし}佩刀とされる程の腕前でした。

文政12年(1829)、第8代藩主^{なり}斉脩の逝去に伴い、水戸藩第9代藩主となった斉昭は、次々と水戸藩の改革を進めていきました。これは「水戸藩の天保の改革」と呼ばれ、老中水野忠邦を中心に江戸幕府が行った「天保の改革」にも示唆^{しき}を与えた

藤田東湖が仕えた名君

ともいわれています。

文政7年(1824)にはイギリスの捕鯨船が大津浜に上陸するなど、列強諸国に対する危機感が強まっていきました。

このような時代背景の中、斉昭自身も外国に対して強い関心を持つようになり、反射炉・砲台・海防陣屋の建設など海防強化に取り組んだほか、幕府海防^{かいぼう}参与の要職に就任するなど、幕政にも影響力を示しました。

そして、何と言っても斉昭の代表的な偉業に挙げられるのが、弘道館と偕楽園の創設でした。「神儒^{しんじゆ}一致・文武一致^{いっち ぶんぶ いっち}」をはじめとする5つの建学の精神のもと、弘道館建設の責任者に任命されたのが、水戸藩において斉昭が最も信頼を寄せていた藤田東湖です。

弘道館は、兵学・天文・地理・数学に至るまでの学問と剣術・槍術・水術などの武芸、さらに医学にも力を入れ、まさに今日の総合大学^{そうごうだいがく}の観があり、その敷地は藩校としては全国一の規模を誇りました。

弘道館が学問や武道に打ち込む鍛錬^{たんれん}の場であるのに対し、偕楽園は弘道館で文武修行する藩士の休養^{きよう}の場であると同時に、領民と偕に楽

しむ場でもありました。

これは、園名の“偕楽”が中国の古典である『孟子』の「民と偕^{とも}に楽しむ^{もうし}、故に能く楽しむなり」の一節から採ったといわれていることから窺^{うかが}えます。優秀な人材を育成するという斉昭の思想は、彼の没後も「文武不岐^{ぶんぶふき}」という形で学校教育に生かされています。

その徳川斉昭の腹心の部下として活躍した藤田東湖の生誕の地に建てられたのが社会センター(後の「みと好文カレッジ」)です。

みと好文カレッジは、この地で、生涯学習の発信基地としての役割を担^{にな}ってきましたが、現在は、活動の場所を水戸市総合教育研究所に移し、全市的な生涯学習を推進しています。



旧水戸藩藩校 弘道館